

ナショナルバイオリソースプロジェクト実験動物メダカ
平成16年度 第1回研究運営委員会議事録

日時：平成16年10月26日(火)13時～17時

場所：東京工業大学すずかけ台キャンパス すずかけホール 集会室1

出席者：長濱嘉孝(委員長、議長)、石川裕二、岡本 仁、工藤 明、近藤寿人、柴田直樹、武田洋幸、堀
寛、三谷啓志、山崎由紀子、若松佑子(以上委員)、村松 学(文部科学省研究振興局)、相沢浩
一、尾田正二、丸山耕一(以上オブザーバー)、橋本寿史(事務局)

欠席者：井口泰泉、酒泉 満

開会挨拶 東京工業大学 工藤 明
文部科学省挨拶 文部科学省研究振興局 村松 学
本日の議事について 基礎生物学研究所 長濱嘉孝
議事に先立ち、前回の議事録が承認された。議事内容の確認と議論の仕方を確認した。

議事

1. 中核機関事業報告

- 1)活動報告 名古屋大学 若松佑子
2)メダカブックの構築 名古屋大学 橋本寿史
・機関ごとの担当項目の原案を名古屋大学で作成し、後日サブ機関に提案する。
・遺伝子カタログは各機関の Web サイトで独自に公開し、メダカブックからはリンクを貼るにとどめる方向
で進めることとした。
・authorship の明確化および review 制の導入を計り、プロトコールの提供者に提供実績が業績として認
められるように検討して欲しいとの要望があった。

2. メダカシステムの収集・保存・提供活動の報告

各担当機関より説明があった。

- 1)近交系 放射線医学総合研究所 石川裕二
2)野生集団、性決定・性分化突然変異体 新潟大学 酒泉 満
※発表者欠席のため省略された。
3)近縁種 信州大学 柴田直樹
4)自然突然変異体および透明メダカ 名古屋大学 若松佑子
5)内胚葉・中胚葉性器官に関する突然変異体 東京大学(理学) 武田洋幸
6)骨と血管に関する突然変異体 東京工業大学 工藤 明
7)初期胚発生に関する突然変異体 科学技術振興事業団 近藤寿人
8)トランスジェニック 東京大学(新領域) 三谷啓志

3. 平成15年度評価報告書の検討と対応

名古屋大学 若松佑子
評価報告書に基づき説明された。サブ機関が多すぎる、という指摘を中心に議論された。
・リソースの保存にはそれを熟知している研究者が必要であり、不用意な集中化はリソースを失うことにつ

ながりかねないとの懸念が出された。

・村松担当官より評価報告書への対応がなければ、今年度の評価が厳しいものとなる可能性が指摘された。特にサブ機関が多すぎることへの対応が重要であるとのことだった。

・今後の対応については下記の方針で意見が一致した。

- ① 平成17年度中に対応策を立て、平成18年度の概算要求に反映させる必要がある(長期的な計画)。
- ② メダカバイオリソースセンターを設置し、可能な限りメダカ系統・突然変異体をセンターに集約し、バイオリソース事業の効率化を図る。
- ③ 誘発突然変異体に関しては、1)収集システムの整理と公開、2)保存、3)バイオリソースセンターへの集中化、等によって、事業の効率化を図る。

4. その他

1)第27回分子生物学会 NBRP パネル展示・シンポジウムへの参加 橋本寿史

・ポスター展示の概要説明があり、ポスター作成は各機関の分担とすることになった。

2)日本学術振興会事業平成17年度国際研究集会の開催 若松佑子

・「メダカバイオリソースの国際標準化」が採択されたこと、および平成17年度秋に開催の予定であることの報告があった。

3)次回研究運営委員会の開催場所 若松佑子

・東京大学での開催を検討することになった。

閉会挨拶

若松佑子